

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043 (223) 3005  
毎月 1 日発行  
平成 28 年 7 月号

## 千葉県における産地連携の取組について

公益社団法人 千葉県園芸協会  
産地振興部 主査 榎 晋介

県産主要 7 品目の生産力・販売力強化を図るため、各 J A、全農千葉県本部、千葉県、千葉県園芸協会がオール千葉体制で戦略的に取り組んでいます。平成 27 年度は県内主要 7 品目で協議会を開催し、事業を推進してきましたので、紹介します。

### 1 平成 27 年度の品目別協議会の取組

トマト協議会では、県産トマトの品質向上・平準化を図る第一歩として、「抑制トマト販売検討会議」を新設しました。本会議では、各時期における県共通の着色基準の決定や他県のライバル産地の調査、県内産地の品質チェック等を行いました。抑制トマトの出荷終了後に、本取組について主要市場にアンケートを行ったところ、主要市場の 8 割が県産トマトの品質が向上したと回答しました。また、出荷されるトマトの着色の均一化が図られたことから、複数産地のトマトを集約し、量販店に安定供給する取組も試行しました。

ねぎ協議会では、長年にわたり市場から生産拡大を求められてきた 5 月出荷の「夏ねぎ」に取組まれました。高品質の「夏ねぎ」を栽培するためには 2 条トンネル等による栽培が必要となり、資材費負担が大きくなることから、ねぎ協議会として生産面・販売面で支援を行いました。その結果、JA 長生、JA 山武郡市、JA ちばみどりにおいて新たに取組む生産者が増加し、前年比 2 倍の出荷が見込まれています。



初夏ねぎ共通シール

にんじん協議会では、本県の春夏にんじんで被害が問題となっている難防除害虫「ヒョウタンゾウムシ」の防除対策の取組を進めました。また、秋冬にんじんについては、量販店や業務用等の大口

需要に対応し有利販売につなげるため、既に統一

した小袋の共通デザインの利用拡大や、各産地に対して出荷規格の統一を提案しました。また、11 月には県内 5JA が参加した



秋冬にんじん試食宣伝会

合同試食宣伝会

を大田市場で実施しました。

さつまいも協議会では、品種ごとの販売戦略を構築し、本戦略に基づいた販売プロモーションを実施しました。年内はベニアズマを中心とし、さつまいもの日である 10 月 13 日を軸に販促を行い、年明けは、焼き芋需要に対応するため、「30 日貯蔵ルール」が県内に定着した「しっとり、あまい」べにはるかを中心に、大田市場での試食宣伝や量販店での産地販促等を行いました。

だいこん・キャベツ・きゅうり協議会については、平成 28 年 2 月 18 日に協議会を開催し、「産地連携による生産技術の情報共有」「オール千葉の秋冬野菜の PR による有利販売」等の方向性について共通認識を図りました。

### 2 平成 28 年度の取組

本年度は、品目ごとに確認できた連携事項を実施することとし、その推進内容を関係者で協議しながら、産地の活性化に向けたモデル事例を作成し、周辺産地への波及・拡大を目指していきます。

野菜ニュース



## 大果で良食味のイチゴ新品種「千葉S4号」

千葉県農林総合研究センター 野菜研究室  
上席研究員 前田 ふみ

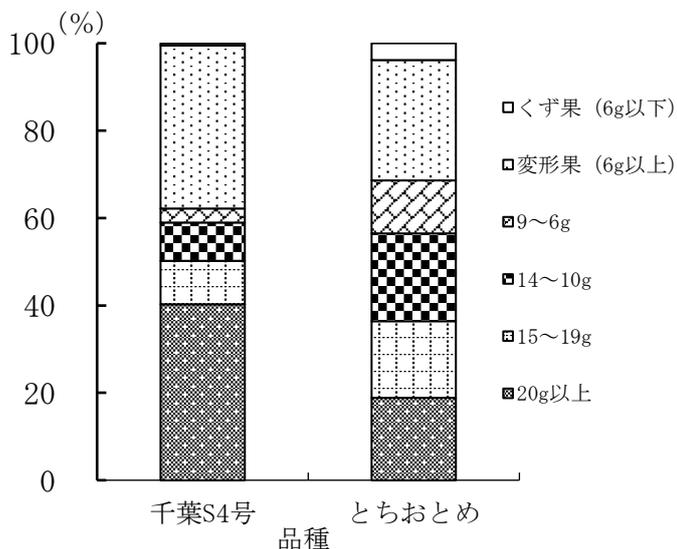
千葉県が育成したイチゴ新品種「千葉S4号」は20g以上の果実割合が高い大果品種です。果実は円錐形、果皮色は濃赤色で着色がよいです。糖度が高く、甘みと酸味のバランスがとれた良食味品種です。果実での発生が問題となるうどんこ病に抵抗性があります。

### 1 はじめに

千葉県におけるイチゴは平成 25 年度の栽培面積 220ha、生産額は 72 億円で本県の重要な園芸品目です。県内で生産されるイチゴの販路は市場出荷と観光・直売に大別され、品種に対する消費者ニーズも多様化しています。その中でも果実が大きく、病害の発生が少ないことは、特に観光・直売向けイチゴの生産者が求める特性です。そこで、大果、良食味で病害に抵抗性をもつイチゴ品種「千葉S4号」を育成しましたので紹介します。

### 2 収量特性

果実の大きさは果房第一果が 40g を超え、平均果重約 18g で小果の少ない大果品種です。収量は「とちおとめ」と同程度ですが、20g 以上の果実が約 4 割を占め「とちおとめ」の 2 倍以上です(表)。収穫開始から他品種の果実が小さくなる春まで大きな果実が収穫できます。



表：収穫果実重の規格別割合

### 3 果実特性

果実は縦長で、果形は円錐形です。果皮色は「とちおとめ」より濃い濃赤色、果肉色は橙赤色で空洞果は少ないです。食味は、平均 Brix 値が 10 を上回り、糖度とともに程よい酸味のある果汁たっぷりの良食味品種です。



写真：新品種「千葉S4号」

### 4 病害特性

イチゴでは果実表面に白い粉がついたようになるうどんこ病が発生します。うどんこ病が発生した果実は商品価値がなくなるため、収益に大きく影響します。「千葉S4号」はこのうどんこ病に対して抵抗性をもっています。

### 5 おわりに

「千葉S4号」は平成 28 年 9 月に愛称が発表され、平成 29 年 1 月から本格的に観光・直売で販売されます。新しい千葉県のオリジナル品種を是非ご賞味ください。

頑張る産地



## 横芝光町坂田城跡梅林組合の取組

山武農業事務所 改良普及課  
上席普及指導員 井上 誠之

横芝光町坂田城跡梅林組合では、約 4ha、1,000 本超の梅が栽培されています。  
町・観光協会等との連携を図りながら、地域資源としての梅林の維持・発展に向けた取組が進められています。

### 1 梅栽培の経緯

横芝光町大総地区の梅栽培は、昭和 40 年頃の土地基盤整備を契機に始まりました。同時に坂田城跡梅林組合（現組合長：八角操氏）が設立され、当時は栽植面積 10ha、組合員 50 名でした。その後、生産量の拡大に伴い、昭和 54 年には共同選果場が建設されました。

しかし、高齢化・後継者不足等から昭和 60 年をピークに組合員が減少し、現在の組合員は 14 名、栽培面積は約 4ha、1,000 本超の栽培となっています。

### 2 現在の生産状況

収穫時期は5月下旬～6月中旬で主力品種は、梅酒等に利用される青梅の「白加賀」です。出荷は農協を通じての共選共販が中心で、組合として梅の市場出荷を行っているのは千葉県内で唯一です。高品質な果実を出荷するために、厳しい選果を徹底しています。



選果の様子

### 3 地域資源としての梅林

当初は、50 名いた組合員も高齢化・後継者不足に伴い減少してきました。

そうした中、15 年ほど前にテレビで梅林が紹介されたのをきっかけに、梅の花見客が急増しました。そこで花の時期に「梅まつり」を開催し、直売所で自家製の梅干しなどの販売を行いました。その後、関係機関への働きかけや、トイレや駐車場の整備、案内板の設置などが進み、「梅まつり」が町の行事として認識されるようになりました。

また、10 年ほど前から、収穫の時期にもぎ取り体験を開催しています。年々、若い家族連れの参加者も増えてきており、イベントとしての定着、消費者交流、PR 効果、認知度の向上が少しずつですが上がってきています。

参加者からは「実が大きくきれい」「もぎ取るのが楽しい」等の喜びの声が多く聞かれました。



もぎ取り体験の様子

八角組合長は、「町・観光協会と連携し、地域資源として「町の木」でもある梅を維持・管理していきたい。もっと多くの人に、坂田の梅を知ってもらいたい。」と、語ってくれました。

頑張る産地



## 「JA いすみ青年部」の取組について

いすみ農業協同組合  
営農部営農販売課 米本 光宏

JA いすみ管内は山間部と水田地帯中心の園芸生産には不向きな立地となっている。また、高齢化も県内で最も進んでいる地域とされ、生産者・後継者不足が深刻な地域となっている。そのようななか、様々な農業経営を行っている若手による「JA いすみ青年部」を設立し、部員相互の情熱と協同意識により、生産技術の向上と農業経営の改善に努めるとともに、地域農業活性化に寄与する事を理念に、将来の夷隅農業のため具体的な活動を開始した。

### 1 JA いすみ管内の状況について

JA いすみ管内である夷隅郡市は、夷隅川上流域となる中山間部と、夷隅川中流及び下流域に広がる平坦部に区分され、県内でも特徴のある地域となっている。勝浦市、大多喜町を主とする中山間地域は半数以上が森林と県内でも森林率が高い地域。平坦部は耕地のほとんどが水田という水田単作地帯で、重粘土地帯でもあり、排水性の面から園芸の生産には不向きということで、稲作に特化した比較的大規模経営の農家と、稲作兼業農家が多い地域となっている。また、夷隅郡市は生産者の高齢化が進んでいる地域で、65 歳以上の基幹的農業従事者割合が 72%と県平均の 57%を大きく超えた県内でも高齢化が進んでいる地域で、後継者も少ないことから夷隅農業の維持は難しい状況となってきている。

### 2 JA いすみ青年部設立までの経緯について

JA いすみでは、JA・夷隅農業事務所・全農の関係機関による「夷隅地域農産物生産振興会議」を立ち上げ、夷隅農業の今後について議論をしてきた。

そのなかで、①水田及び耕作放棄地を利用した園芸品目への取組。②収益性向上に向けた園芸品目と組み合わせた水田複合経営の確立。③後継者問題に向けた若手担い手への支援。という方向性の統一を図った。産地の現状は高齢化による若手生産者の減少が著しい状況であったが、一人の若手認定農業者が、園芸の生産・販売について、JA の担い手担当に相談があり、関係機関と支援をおこなった。この事がきっかけとなり、関係機関とこの若手認定農業者を中心に、将来の夷隅農業の担い手になるであろう若手生産者 40 名を選出し、個別訪問による勧誘をおこない、16 名参加による市場視察や実需者意見交換をおこなった。このような取組を皮切りに、青年部の前身である「夷隅農業の今後を考える会」を設立した。この会は若手農業者・関係機関に加え、青果市場卸の東京青果にも加わってもらい、若手農業者個々の経営状況・課題、実需の要

望する園芸作物について議論や意見交換を重ねてきた。そして、平成 26 年 12 月 11 日に、水稻・園芸・畜産・養蜂・苗等様々な農業経営体による若手 14 名にて「JA いすみ青年部(愛称：いすみグリーンレーベル)」の設立に至った。

### 3 「JA いすみ青年部」の取組

JA いすみ青年部は部員相互の情熱と協同意識により、生産技術の向上と農業経営の改善に努めるとともに、地域農業活性化に寄与する事を理念に設立した。また、活動方針には、水田裏作での積極的な取組や規模拡大に向けた技術の向上等を掲げている。そこで、27 年度は水田利用による統一的な園芸品目の生産として、小面積ではあるが市場要望にあったブロッコリーの試験栽培を開始した。

#### 【平成 27 年度活動内容】

- ・ 2 月 20 日 園芸基礎研修会
- ・ 6 月 19 日 ブロッコリー栽培講習会
- ・ 7 月 31 日 ブロッコリー農機実演会・栽培前会議
- ・ 8 月 5 日 ブロッコリー播種開始
- ・ 8 月 24 日 定植開始
- ・ 9 月 22 日 成田営農技術センター定植機実演会
- ・ 10 月 21 日 全体圃場巡回

結果は、出荷数量は少なかったものの、水田裏作での栽培にある程度目途がたった。また、各青年部員が役割を持っておこなった結果、一つの目標に対して青年部全体で取り組むことができた。



### 4 今後の取組

今後はブロッコリーの面積拡大を基本に、他品目にも挑戦し、将来は夷隅郡市全体の園芸産地化を目指す。

頑張る産地



## 個性的なユリでファンの心をつかむ「湯浅花園」

東葛飾農業事務所 改良普及課  
普及技術員 鈴木 雄介

市川市の「湯浅花園」は新品目をいち早く導入し、花業界では先駆的な存在です。特にユリに関しては、豊富で珍しい品種と品質で、業界への提案力は他の生産者の追随を許しません。

### 1 湯浅花園とは

湯浅英雄さんが昭和 46 年にユリを中心とした施設花き栽培を始め、現在 46 年目になります。今では定番となったオリエンタルユリのルレーブを、日本で一番初めに導入したのがこの湯浅花園です。現在オリエンタル系やスカシユリなど合計 50 品種に及ぶ多様な品種を栽培しています。最近注目されている八重咲き品種も積極的に取り入れ、千葉県では湯浅花園でしか生産されていない品種もあります。

湯浅さんの品種選びはオリジナル性のあるものが特徴で、インパクトの強い色合いの品種も多く取りそろえています。個性的な品種の品揃えもさることながら、最後の蕾まで咲く品質の高さから、生花店から圧倒的な支持を受けています。

栽培へのこだわりは馬糞堆肥を利用した土壌改良、適切な水分管理に表れており、それが花もちの良さに繋がっています。



八重咲きの新品種「エミカ」

### 2 農園から直接お客様へ

農園に隣接したアトリエのような直売所「リリースハウス」でも販売を行っています。新鮮な花を求めて遠方から訪れる人もいるほどです。直売ではお客様の声がダイレクトに聞けるため、品種選びの参考になるそうです。集客にあたっては、地域情報誌にクーポン券を掲載する等、工夫をしています。



チラシで新しいファンの獲得を

### 3 今後について

後継者の友洋さんが 2 年前に就農したのを機会に「都市部の有利性を生かした直売活動を積極的に展開していきたい」とのことです。インパクトの強い品種でオンリーワンの存在である湯浅花園が今後ますます注目されます。



農園に隣接した直売所「リリースハウス」

## 千葉県立農業大学校 農業研修科 研修生募集

農業大学校では、新規に就農する方を対象に基礎的な農業知識・技術の習得と農作業を体験する研修コースを開催しています。

### 1 就農準備講座

毎週土曜日を利用して、作目の栽培経過を体験・観察できるように連続で7回実施しています。午前中は講義、午後は実習です。

### 応募受付期間

平成28年7月25日(月)～8月5日(金)  
次回(平成29年度前期)  
平成29年3月中旬～4月上旬

### 2 農業者養成研修

県内で、新たに就農しようとする方や、既に、就農している方が対象です。

### 応募受付期間

平成28年6月6日(日)～7月1日(金)  
次回(平成29年度前期)  
平成29年1月中旬～2月上旬

#### (1) 基礎研修(専門・部門別も共通)

講義科目は、野菜・花き・作物・果樹・土壌肥料・病害虫・農業経営です。農場実習は、県内で栽培されている野菜・花きの栽培管理です。

#### (2) 専門研修(部門別も共通)

基礎研修修了後、部門別に分かれて農家実習と、農場実習及びプロジェクト実習を実施します。

#### (3) 部門別研修の12カ月コース

専門研修修了後、継続して農家実習とプロジェクト実習を実施します。

### 問い合わせ

電話 0475 (52) 5121

FAX 0475 (54) 0630

住所 〒283-0001 東金市家之子1059

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>

[noudai01@mz.pre.chiba.lg.jp](mailto:noudai01@mz.pre.chiba.lg.jp)(受信専用)

「千葉県立農業大学校」を検索してみてください。

## 千葉県立農業大学校 推薦入学案内

本校は、農業を志す優れた担い手及び指導者の育成を目指しており、入学生を募集しています。

募集人員 農学科:約40名  
研究科:約10名

### 受験資格

**農学科**: 高等学校を卒業した者又は平成29年3月卒業見込みの者で学校長の推薦がある者。

**研究科**: 農業大学校等を卒業した者又は平成29年3月に卒業見込みの者で学校長の推薦がある者。

試験期日 平成28年10月25日(火)

試験場所 千葉県立農業大学校

### 試験内容

各科共通 書類審査、小論文、面接

願書受付 平成28年9月30日(金)  
～10月14日(金)

合格発表 平成28年11月4日(金)

### 問い合わせ

千葉県立農業大学校庶務教務課

〒293-0001 千葉県東金市家之子1059

TEL 0475 (52) 5121 FAX 0475 (54) 0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



千葉県立農業大学校  
CHIBA PREFECTURAL AGRICULTURAL COLLEGE

